

## 取締役会の実効性分析・評価 <2024 年度の評価結果について>

2024 年度の実効性分析・評価では、前年度の評価結果を踏まえ実施した各取り組みについては一定の改善が図られたことを確認しております。また、経営戦略等の重要課題に対する建設的な議論・意見交換や、経営陣執行部に対する実効性の高い監督およびモニタリングを通じて、取締役会の役割・責務が適切に果たされ、全体として、取締役会の適切性・実効性が十分確保されていたと評価しております。一方で、更なる改善の余地について意見が出されたことを踏まえ、2025 年度の実効性分析・評価では、その傘下各委員会や社外取締役による会合等も更に活用しながら、自己評価を踏まえた運営課題に取り組み、PDCA サイクルによって取締役会の役割・責務の更なる適切性・実効性向上を目指してまいります。

- 評価対象 : 2024 年度開催の取締役会（計 17 回）
- 評価者 : 全取締役および全監査役（取締役 9 名、監査役 3 名）
- 評価方法 : アンケート（択一式および自由記述式）
- 最終評価 : 取締役会で議論・評価し、顕出された課題に対する今後の取り組みの方向性を確認

評価項目	2023 年度評価における課題	2024 年度の取り組み	2024 年度の評価結果	2025 年度の取り組み（例）
取締役会の議論	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金融市場の環境変化を踏まえた経営戦略、リスクガバナンス、中長期的なビジネスの方向性等についての更なる深度ある議論</li> <li>● 取締役会で討議すべきテーマを募り、討議を実践する枠組みの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リスクガバナンスの高度化に関する議論（リスクアペタイト・フレームワークの本格導入）</li> <li>● 大和証券グループ本社との協業を踏まえた中期経営計画「AOZORA2027」の審議のほか、当期の主な議題事項の審議</li> <li>● 個別テーマの集中討議の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リスクアペタイト・フレームワーク運営を経営に本格導入し、主要なリスク、リスクの許容度、管理の状況等、必要なモニタリングと十分な質疑を実施</li> <li>● 「AOZORA2027」の策定に向け、経営理念に立ち返り十分な議論を実施</li> <li>● 「AOZORA2027」初年度においては、環境変化に応じた迅速・柔軟な対応を実施すること、また成果を意識的にモニタリングする必要性について課題として認識</li> </ul>	<p>【経営戦略の議論の充実化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2025 年度リスクアペタイト/リスクテイク方針に沿った業務運営、「AOZORA2027」の進捗状況のモニタリング</li> <li>● 大和証券グループ本社との業務提携の定量的効果の確認・審議</li> <li>● 中長期的な成長に資するテーマの審議</li> </ul>
取締役会の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社外取締役への適切な情報共有</li> <li>● 事前説明の活用やアジェンダの工夫による審議の活性化</li> <li>● 資料・説明の一層の工夫</li> <li>● 執行部の担当者等からの報告の機会の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取締役会以外での情報提供の更なる充実化</li> <li>● 引き続き、取締役会資料の早期提供、事前説明の有効活用を行うと共に、当日は分かり易い資料・ポイントに絞った説明等の工夫や議長のタイムマネジメント等によりメリハリある運営を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原則 1 週間前配信がなされている他、取締役会懇談会、個別ミーティング等により事前説明の機会が適切に設定され、審議の活性化に繋がったとの評価がある一方で、アジェンダの設定（議題の内容・量）、資料の分かり易さについては、更なる改善の余地</li> </ul>	<p>【深度ある議論を支える運営の継続的改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ポイントを絞った資料およびコンパクトな説明等、取締役会運営の一層の工夫に取り組む</li> <li>● 担当役員からのビジネス進捗報告の機会</li> </ul>
株主等との対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ステークホルダーを意識した議論の必要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機関投資家との対話、経営陣幹部による IR・SR 活動状況等の定例報告を受け議論</li> <li>● 社外取締役による機関投資家向けミーティングを実施し、対話の機会を設けた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 直接の対話の機会により、投資家が当行の経営の理解を深めるとともに、投資家の期待を確認し経営に反映させる機会となった</li> <li>● 今後、更に IR が重要となることを踏まえた取締役会における IR 活動全般に係る深度ある議論が必要との課題が認識された</li> </ul>	<p>【ステークホルダーとの対話推進に係る審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主・機関投資家との対話において把握された意見・懸念を取締役会の議論に反映</li> <li>● 今後の IR 方針・活動全般についての深度ある議論を行う</li> </ul>